

入札等監視委員会 審議概要

(ホームページ掲載日：令和2年2月18日)

		令和元年12月10日（火）第2特別会議室			
委員		高橋 昌彦（公認会計士） 吉岡 隆久（弁護士） 藤枝 智昭（ジャーナリスト）			
審議対象期間		令和元年7月1日～令和元年9月30日			
審議対象案件		4件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 3件		
抽出案件		4件 (抽出率 100%)	うち、1者応札案件 0件 (抽出率 0%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 3件 (抽出率 100%)		
抽出 案件 内 訳	工事	一般競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
		指名競争	公募型指名競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			工事希望型競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			その他の指名競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		随意契約	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
	物品 役務	一般競争	1件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
		指名競争	公募型競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			簡易公募型競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			その他の指名競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		随意契約	公募型プロポーザル	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			簡易公募型プロポーザル	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			標準型プロポーザル	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			その他の随意契約	3件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 3件
	(特記事項)				

	意見・質問	回答等
委員からの意見・質問、それに対する回答等	(詳細に記述すること。)  別紙議事録のとおり	(詳細に記述すること。)  別紙議事録のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容  [これらに対し部局長が講じた措置]	特になし	

事務局：農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター総務課

(注1)必要があるときは、各事項を著しく変更することなく、所要の変更を加えることができる。

(注2)公益社団法人等とは、公益社団法人又は公益財団法人（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第42条第1項に規定する特例社団法人又は特例財団法人を含む。）をいう。

## 委員からの意見・質問、それに対する回答等

意見・質問	回答等
<p>○共用ネットワークストレージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運用中の共用ネットワークストレージ1台が保守終了となったため、これを更新するということだが、この機器自体の保守契約を更新して使い続けることは出来ないのか。</li> <li>・物理的に使えない、安心して使い続けることが出来ないのか。</li> <li>・前回の購入先はどこだったのか。入札結果の金額を見ると、1位と2位の金額が結構離れている。落札した事業者が前度も納入しており、ある程度状況を把握していたのではないかと思います。</li> <li>・これまでにこの購入は何回ぐらい行っているのか。</li> <li>・購入をする度に業者は入れ替わっているのか。</li> <li>・定価があると思うが、それから見るとかなり安いのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保守終了はEOL (End Of Life)、メーカーの保守が終了となるということ。更新対象のストレージの保守は別途契約していたが、EOLが来てしまうとメーカーとしては保守契約が出来なくなってしまい、機器は使えなくなるため、更新するものである。</li> <li>・EOLを迎えた機器というのは、常識的には使わない。使えないことはないが、セキュリティ上の危険が多いのでEOLが来たらその機器の寿命は終わりということである。他の機器も全てそのような形で運用している。</li> <li>・共用ネットワークストレージは複数台で運用しており、昨年度購入したものは、今回の事業者とは別の事業者が納品している。</li> <li>・年に1、2台程度更新している。共用ネットワークストレージというのは、簡単にいうとディスク装置だけである。EOLが順次到来するため、計画的に購入している。</li> <li>・今回納品した事業者がずっと落としていくということはない。この金額差の理由はわからない。</li> <li>・定価はないが、1次代理店などが提供しているネット上の見積サービス金額と比較すれば、かなり安価であると言える。競争</li> </ul>

・特に安いからといって性能的に支障があるということはないか。

・同じ機器にしては随分値段の差がある。むしろ入札の成果が出たということか。

・機器の内容は汎用性が高いものを組み合わせて作るようなユニットなのか。

・今回、安くなったのは良いことだが、それにしても2社しか来ていない。市販製品であれば、もっと多くの業者が入ってきても良さそうだが。保守を5年間行うことも、さほど厳しいものではないと思われる。前回、納品した事業者が、今回は参加していないのも気になるところだ。

・仕様書にある「納品後、5年間先出しセンドバック保守を行う」というのはどういうことか。

に参加したもう1社は普通の金額であろうと思う。

・入札の前に、当方の仕様書に対してどのような機器を提供するのかを審査しており、2社とも同じ機器であった。性能面で問題はない。

・そのように考える。

・既製のものである。製品化されているものを想定した調達であり、仕様書もそのように作成している。サーバラックの中にディスク装置として何台か入っている内の1台の更新であり、特に最初からカスタムを要するものではない。

・前回納品した事業者は、筑波近郊の営業拠点を廃止したという事情があると推測している。今回、仕様書自体は8社持って行った。なぜ、競争に参加しなかったかというアンケート結果で一番多いのは、他の業務との兼ね合いで手持ちの人員の確保が困難であったということであった。仕様書中では、特に実績や技術的要件を指定しておらず、機器性能や機器保守の要件だけを記載している。機器性能は市販のもので対応可能であるし、保守も厳しい条件ではないため、さほど難しい調達ではなかったと思っているが、その中で2社しか来なかった原因は、得意とする機器ではなかったということかもしれない。

・先出しセンドバックというのは、機器が故障した際に先に代替機を提供して、故障した機器をメーカーに持ち帰り修理するという形態であり、一般的な保守の形態となっている。

・仕様書に「ハードディスクを交換した場合はデータ消去作業を行い、当該作業の証明書を発行すること。対応できない場合、交換後のハードディスクは納入場所へ残置できること。」とあるが、どのような内容か。

・ハードディスクの交換は無償で行うのか。

### ○「知」の集積による産学連携推進事業のうちプロデューサー活動支援事業（3件）

・仕様書に記載されていないが、3社はそれぞれ具体的にどのような活動を行うのか。

・選考過程は選考委員がいて、提案があって、それに対して点数を付けて、ヒアリングをして選考したということだが、過程についてもう少し詳しく聞きたい。点数はどのように付けているのか。

・データの流出を防ぐ意味で、データ消去を確実に行ったという証明をさせる仕様としている。データ消去が困難な場合は、当センターに残置させて、当センターが管理する。使用不可である場合は、当センター所有のハードディスククラッシャーで物理的にディスク装置を破壊している。

・保守の範囲内で無償交換となる。

・それぞれプロデューサーがテーマを持って応募しており、未来工学研究所のテーマは「新技術実装による持続可能な畜産に向けて」ということで、複数の畜産関係のプラットフォームが連携して事業を行うこととなっている。三菱ケミカル株式会社は「輸出拡大に向けた戦略構築と社会実装」ということで、輸出関連をテーマに扱っている。森林研究・整備機構は「地域の木材流通の川上と川下をつなぐシステム・イノベーション」ということで、木材流通に関して生産から加工販売まで一連の流れをテーマとしている。

・審査基準を設けており、8項目の基準がある。10点満点が6項目、20点満点が2項目で、合計100点満点である。追加でワークライフバランス等の取組ということで、特別に「えるぼし認定」、「プラチナくるみん認定」や青少年の雇用の促進等に関する法律に基づく認定を加味して、該当があれば加点される。それぞれ整合性（活動の目的と内容）、必要性（活動の目的と内容、経費の見積）、実現性（統括プロデューサーを中心とした活動計画や取組内容は目指すべき体制の構築に向けたものとなっている

・上位3社で予算が一杯ということだが、提案する予算が低額であった場合はどうなるのか。

・低い予算で提案するのは良いことと思うが、低コストで良い提案を出して来たところがたくさんあった場合、評価委員がそれについてきちんと評価すれば高い点数が付くと思う。必ずしも予算一杯で3社とは限らないのではないか。

・あくまで審査の点数できちんと採否を決定するという点で間違いはないか。

・きちんとしたレベルの者にきちんと予算が交付されているか、基準以上で予算一杯まで使うということなのかを入札の関係で気にしている。

・以前の類似の事業で問題になったが、選考委員と統括プロデューサーに関係があったりしないのか。

るか)、有効性(統括プロデューサーを中心とした取組内容は、農林水産・食品産業の成長産業化・国際競争力強化に繋がる新たなビジネスモデルの構築が期待できるものとなっているか)、効率性(事業の実施体制(①統括プロデューサー人材の実績・能力が、テーマや取組内容に対し十分なものとなっているか、②実施体制が統括プロデューサーを中心に効果的・効率的な活動を行ううえで十分なものとなっているか)という観点で点数を付けており、予算の限度額の都合で上位3社が採択となっている。

・公募の時に最大10,100千円までとしているので、低額であった場合は審査委員会で審査して、予算の範囲内で採択者が追加される場合もある。

・全体の予算の範囲内で点数の高いものを採択している。4社以上あっても構わない。採択結果により全体の予算が余った場合には、追加で公募することとなる。

・審査基準にも平均点が満点の50%を超えない場合は、契約候補者としていないことができるとしている。審査委員会で採否を決定している。

・基準があって、それに達したものが採択されている。

・関係がある場合は、審査から外れてもらう。

・今回はそういうことがあったのか。

・その辺りの配慮はしているということか。

・審査委員の評点で高いところを選ぶというのが審査の概要だと思うが、それぞれが付けた評価について、審査委員の間で協議することはあったのか。

・本委託契約ではプロデューサー活動の有用性が一番のポイントだと思うが、この有用性についてどう考えるかは各委員が抱かれる心証はまちまちだと思う。有用性についてどのように協議されたかというのは議事録が残っているのか。どのように記録されているか。

・各委員の評価に関する説明に対する他の委員の協議がどう行われたかは記録されているか。

・有用性について確認の協議の場が設けられているということか。

・様々な視点での評価に対し、意見を述べた具体的なポイントも述べられているか。

・具体的にプロデューサー活動としてどう

・事前に審査委員に資料を渡した時に、関係のある所があったら審査前に連絡をしてもらうよう依頼しており、今回は1件あったため、その委員には審査から外れてもらった。点数は他の委員の平均点になっている。

・はい。

・ヒアリング審査が終わった後に企画審査委員会を開き、その時に委員それぞれの点数が記載された一覧表を渡し、それをもってどのプロデューサーを採択するか協議を行っている。審査委員によっては、評価の分かれる企画提案もあるので、その場合にはそこで話し合いを行い採択した。

・やはり審査委員によって評価する視点が異なるため、評価委員会で協議して決定する。なお、協議事項は議事録に記録しているが、非公開としている。

・審議内容を記録している。

・はい。

・今回は3件を採択したが、点数的には同点3位が2件あり、そのどちらを採択するかを協議し、どちらのポイントを取るかについて審査委員の間で話し合い、片方を採択した。

・それぞれのプロデューサーによって異な

いうことをするのか。

・本事業の公募対象となるのは、「現実的かつ具体的な商品化・事業化の構想の下で新たなビジネスモデルの構築等の活動を行う者を公募し」ということだが、セミナーを行うことと新たなビジネスモデルの構築がどう結びつくのか。

・続いて三菱ケミカル株式会社の活動と、ビジネスモデルの構築はどう繋がるのか。輸出関連として具体的な活動は何か。

・3番目の森林研究・整備機構はどうか。

るアプローチを行っているが、例えば未来工学研究所ではセミナーを行っている。今のところ4回、各回異なるテーマで開催している。

・「畜産ネットワーク」という名前でプロデューサー事業活動を行っており、大きな柱として二つ事業を行っている。一つはセミナー、もう一つがICT調査ということで、現地調査を行っている。セミナーは、「多様な異分野の会員を含む交流・議論を促し、取組の現状と解くべき課題を共有することにより、技術の普及と異分野連携からイノベーションに繋がる課題発見を探る」という目的で行っている。実行単位として部会を作っており、畜産ICT部会と家畜畜産物部会という二つの部会でセミナーを行っている。

・協議会を設立し、現在認証制度の準備をしている。そのために農林水産物、食品のアジアを中心とした輸出推進に向けた市場調査を行っている。また、国内における大規模養殖事業の推進と輸出拡大に向けた環境整備、ICTを活用したグリーンハウスシステムの輸出推進とサイバー管理サービスの新ビジネス創出に向けた環境整備ということを目的に行っている。

・川上と川下の連携により持続可能な林業を行うことを目的に事業を行っている。基本的な課題としては、国内で森林・林業が衰退しており、国内ではなかなか売れずに輸入木材が使われている。また、需要と供給のミスマッチもあるため、その解消に必要な流通システムの基本構図を設計し、森林資源を安定的に供給するための利益還元の仕事を作ることをテーマにしている。そのための調査を現在行っている。また、シンポジウムを行う予定である。このシン



・活動の内容・幅が大きそうな気がする。一方で本件の契約で交付されている予算が1千万円位なので、この予算で提案された活動が賄いきれるものではないのではないか。3社がやろうとしている事業に必要な資金の一部として与えられるものという位置づけかと思うが、そうなのか。1千万円で出来る範囲で行うのか。

・評価の対象というのは、3社が提案した活動全体について評価しているものなのか。

・事業全体の中の有用性とか使途について検討されるとして、約1千万円という予算が妥当なのかどうかは、どういう形で審査委員は検討しているのか。事業全体として得られる成果が3千万円の成果のものに対して1千万円出すというのと、事業全体の成果が1億円期待できるものに対して1千万円出すというのでは、効率性が全然違うので、審査委員は事業全体に対して1千万円出すことがどれだけの価値があるのか、効率性について検討されているのか。

・審査委員が評点を付ける時、成果の期待される大小について検討しコメントも出しているのですが、出してきた予算に対して効果を検討しているのではないかと。検討していないのであれば、予算使い切り型の選考になってしまっている感がある。1千万円の予算で提案されたものに比べて、期待される効果は低いですが予算が5百万円の提案であれば、効率性の観点からすると5百万円の提案の方が優れている可能性も十二分にある。評価で必ずしも予算一杯で取るという

ポジウムは会員の情報共有と課題について討論を行うということである。

・各プロデューサーによって異なると思うが、今回はいずれも一部として、この資金を利用するという形になっている。

・はい。提案書にはどのような使途で予算を使う予定なのかを記載して提出されているので、審査委員はどのような位置づけでこの予算を使う予定なのか分かっている。

・予算の金額については、元々の予算が決まっていて、予算の範囲内で公募をかけているので、審査委員が1千万円で足りるかどうかも考えているかは分からない。事業評価の基準をこれから作成するが、今までは加味されていなかったもので、それを含めて検討したい。

・最初の審査基準について、予算効率という観点での審査はしていない。あくまでも事業内容についての審査のみになっている。金額については、あくまでも超えない程度で出しているかどうかという点だけしか見ていない。

ことではなく、予算の使い残りがあつたら予算の枠内で引き上げるのであれば、効率性の観点を考えた上で選定されているべきではないか。それが無いのは評価としていかなものか。

・事業内容の評価の中で、提案されたプロジェクト全体の予算は提案されているか。どれだけの期間でどれだけの予算でこれを行おうとしているのかという提案がされているか。

・2ヶ年度の計画だとすると、その2年は長期の中の限った2年なのか、2年で完了するプロジェクトなのか、どちらか。

・最終的な目的を達成するのに5年かかるプロジェクト、その中で限った2年のフェーズのものについてだけ提案して来たものだだとすると、そこの部分だけが完了しても全体が完了しないと意味がない。計画の有効性や実現可能性を検討するのであれば、計画全体を見なければならぬし、資金的に破綻しないでこの計画が実現できるのかを検討する場合、総予算額・事業規模がどれくらいなのかを検討しないといけない。実現可能性はなかなか判定できないのではないか。優れたプロジェクトであっても実施期間があまりに長いと、果たしてこれが現実的なのかどうか。プロジェクトを進めるため世の中の動きが変わってしまつて使い物にならなくなる可能性もある。期間的には問題なくプロジェクトの効果も優れているが、総予算が莫大なものも実現可能性に疑問が出てくる。その点の疑問に答えるような提案になっているのか。審査の時に考慮されているのか。

・応募されたものについて、期間や金額が資料として明記されていれば、審査委員は

・今回は2ヶ年度の計画で募集している案件である。

・今回の委託事業に関しては2年で完了となる。

・今回の審査基準ではそのような観点からの審査基準はない。

・求めていない。あくまでもこの活動支援事業に対する部分のみになっている。

それを考慮した上で評価項目の中に反映されると思う。応募資料を求める時に提案された企画全体の期間、総予算を明示する形で求めているか。

・支援する意味はあるのかどうかという点で考えると、不十分ではないか。実効性・実現可能性を検討する上で、最も基本的な部分が検討されていない気がする。

各企業で事業を行っていて、巨大プロジェクトの中で予算を国から取れば良いと考え、応募して来ている感じになっていて、それが面白い事業であれば取れるということだと思うが、それが国家予算をつぎ込んでまでやるものなので、その効率性は当然こちらでもつぎ込むのに十分値するものなのかどうかを検討しなければならないと思う。その中で例えば10億円くらいの事業で1千万円入って実現するのは10年先となると、費用対効果が見えてこない可能性が出てくる。その辺がきちんと審査されているかが見えてこない。うまく予算を使われてしまっている部分が出てこないかという感じがする。逆に、500万円でも1～2年のうちに成果が出るのであれば、そちらの方が出し甲斐があると思う。こういうものはたくさんやった方が効果が出ると思うので、3つに限らず4つ5つ出来るのであればやった方が目的達成には近付くと思う。そこをもう少し踏み込んで委員が検討しても良いのではないか。判断基準を考えても良いのではないかと思う。

・この事業で大事なことは、選定する時の事業としての実効性や有用性の評価と共に最終的な成果の評価が大事になると思う。2年とか1千万円かけた結果が事業化・商品化・ビジネスモデルとして構築されたかの評価が大事だと思う。平成28年度から行ってきて、これまで採択してきた事業の中

・審査基準作成へのご意見として承る。

・全てが結び付いてはいない。プラットフォーム事業の支援活動の方は、3年一区切りで行っており、毎年度、成果品として報告書を出してもらい、それについても評価をしている。成果が十分でなく、次年度の活動事業が継続に当たらないと評価された場合には、支援を打ち切りにしたものもあ

で具体的に全てが事業化・商品化・ビジネスモデルの構築がされてきたのか。

・それはどれくらいあったのか。

・何件中の3件か。

・成果を上げた事業は何件あったのか。

・確かに今、日本の研究予算の使い方で、答えを短期間に求め過ぎる指摘もある。短期間に答えを求めることが果たして良いのかという中で、長期にわたって支援することの重要性もあると思うが、基礎研究とは違うので、研究のための研究になってしまっただけでは仕方がないので、継続していくためには成果を出していかないとこの事業はいけないのではないかと思う。その辺の評価をどうやっていくのか。事業の評価は何をもって成功とするのが難しいと思うが、もう3年～4年やっている訳で、その中で一定の成果が認められないようであれば、事業自体の見直しも必要になってくるのではないかと思う。

・予算を見るとほとんどが人件費なので、そういった点では事業を進める上での人件費補助のような形に実態はなっているのかと思う。研究支援というよりも人的支援のような感じである。それも重要だと思うが、事業を継続する上で実際に成果が出ないところに国が人的支援までしなくてはならないのかという意見が出てこないとも限らな

る。

・3件である。

・平成29年度に契約していた26件中の3件について、このまま継続しても成果が望めないということで打ち切りになった。

・まだ事業化とまではいかないが、例えば商標登録を準備中とか、かなり具体的などころまで来ているプラットフォームもある。やはり3年ではなかなか実現までには行かず、実証実験までのところが多いような結果となっている。

・5ヶ年で一区切りとなり、来年で1期が終わるので、そこでまた見直しが行われる予定となっている。プラットフォーム活動支援事業が行われた時は、スタートアップの支援という側面が大きかったので、あくまでも形になれば良いが、これから始める事業についての支援という面が大きかったので、具体的な成果が出ているかと問われると難しい面がある。

・審査基準作成へのご意見として承る。

い。1千万円というお金が多いのか少ないのかは分からないが、国の予算を使うということは事業に対する厳しい評価があっても良いのではないかと思う。

・この「知」の集積活動は年数が経っているが、事業の眼目というのは当初から現在に至るまで変化しているのか。一貫して変わらないものなのか。始めた頃は、新しいことを始めるのに腰を上げてもらえる者に支援する形だったのが、時間も経って活動を支援してきたところなので、次のステージとして具体的な商品化・事業化のビジネスモデルを作る者を支援することに移ったのか。プラットフォーム活動を支援する種まきの段階にあって、それをまだ続けているというスタンスなのか。

・ステージが変わってきているということか。

・今年度からはビジネスモデルの構築活動に軸足が移ってきたということだが、こちらが提案者にビジネスモデルのデザインを求めているのか、ビジネスモデルを構築する活動を行えば良いというレベルに止まっているのか。

・ビジネスモデルのデザインを提案してもらっているのか。3社がいろいろセミナー開催、現地調査、市場調査、シンポジウム開催といった活動を具体的に行っていると思うが、その活動の成果物としてビジネスモデルの構築である。何かを行っているうちにモヤモヤとした中からビジネスモデルが出来ていくスタイルで良しとしているのか。それぞれの事業者はビジネスモデルのデザインがあって、それに向かって進んでいるのではないかと思う。活動している中でビジネスモデルの修正が出て来ると思う

・プラットフォーム活動支援事業は、現在募集はしていない。その代わりに今年度は、プロデューサー活動支援事業を具体的に商品化・事業化のビジネスモデルを作る支援として実施している。

・はい。

・実現可能な実施が出来るものとしてテーマを募集している。

・審査項目として「新たなビジネスモデルの構築が期待できるものとなっているか」という項目があるので、その点は審査されていると思う。

が、ゴールとするビジネスモデルのデザインがあって、それに向かって進んでいる。それを提案してそのためにお金が必要だから、そのお金の一部を出してくれと応募して来るのではないかと思う。企画提案の中にはビジネスモデルのデザインが提案されているのではないかと思うが。8社応募して来たが、デザインが無いものは1次選考で、はねられるのではないかと思う。今回採択した3社はゴールとなるビジネスモデルのデザインはきちんと提案されているのか。

・項目にあってもビジネスモデルの構築、活動を一生懸命やりますということでもうビジネスモデルは出来るのではないかと期待は出来る。審査委員は有用性も検討しているので、ゴールがビジネスモデルの構築であれば提案されたビジネスモデルのデザインが有用であると期待できるものを審査していると思う。提案書の中に作らんとするビジネスモデルはデザインがあるはず。それが無くて審査されているとしたら問題である。

・ビジネスモデルのデザインがあれば見せて欲しい。

・審査委員に対してプレゼンしてもらったりするのか。

・具体的なビジネスモデルの検討と実施計画体制について提案されている。

・提案書を提示

・予め企画書を提案してもらうが、当日の追加資料もOKである。大概のところはプレゼン用の資料を分かりやすく作ってきて、そこでプレゼンし、審査委員からの質問を受けている。今回、書類審査はなかったが、プラットフォーム事業の場合は書類審査では低い点数だったが、プレゼンがとても良かったので、一気に採用に至ったものもあったと認識している。企画書の書き方によって印象が随分変わるようである。今回はプロデューサー活動支援事業ということで、ほとんどが他のプラットフォームでプ

・提案書を見ると、相当事業規模が大きそうだ。

・企業プロジェクトとしても動いている。全体予算の一部なんだろう。全体のスケジュール感と資金規模が心配である。

・いろいろな予算を獲得して継続しているという事業なのか。

・事業規模がべらぼうに大きいと、例えば全部の予算規模が100億円かかるのに1千万円の支援をする意味があるのかと思う。これだけの規模の事業であれば別の事業体がきちんとやってくれて、こちらで1千万円渡せば相当実になる別の事業の方に分けてあげたいという考え方もできる。

・事業規模はそれなりのものになると思うし、こちらが予算額一杯まで出す必要性に疑問がある。委託費が全体の成果に比べて本当に効率的なのか。審査の対象が計画全体であれば全容を把握した上で審査委員が

ロデューサーの経験がある者が応募していたので、質の高い提案書が多かった。

・企業と組んでプラットフォーム事業を行っているので、企業が資金を出しており、プロデューサーの交通費やセミナーの会場費などの支援を国の委託費でやっているという形がほとんどである。

・本事業は、予算額に対して2年間の事業計画を策定しているため、全体予算は把握していない。

・この事業とは別の予算で実施するコンソーシアム事業というものがある。研究コンソーシアムは研究が主な支援事業で、こちらの方で研究をやって、こちらの方では事業活動をする場合の諸経費の支援になっているような形で、進められているところも多い。

・いろいろな考え方はあると思う。プラットフォームの方と話をすると、農林水産省の事業を行っている公共団体や地方の中小企業などと一緒に活動したい場合には、受け入れてもらいやすいというメリットがあるようだ。金額の多少よりはそちらも大きいのではないかと思う。大学なども普段なかなか企業と今まで一緒に事業をすることが無かったので、どういう風に話を持っていけば良いか分からないという時に、農林水産省の事業でやっているという話をすると話を聞いてもらい易いのでとても助かったという話を聞いた。

・第2期の募集の時にそのような意見があった旨を伝えようと思う。

検討すべきだと思う。

・ 支援する期間内での成果は全体のスケジュールから求められないということか。

・ 2年分の成果という、全体の事業計画からいうとそれぞれバラバラで、何をもちょう2年分の成果とするか非常に難しい。2年でここまでやりますという計画を出してくるのか。

・ この事業はなるべく幅広く多くの団体に参加してもらいたい。予算が決まっています、予算の範囲内で出す形になっているので、応募してきて一定の点数以上の評価を受けた者については全員出すという形ではなく、その年度の予算によって点数は高いけれども順位で切られる場合もある。今年50点の評価を受けたがもっと点数が高いところがあって切られ、翌年応募した中で40点でも合格するところが出てしまうような現象は起きると思う。予算の規模で足切りされてしまうところが出てくる。点数が良いところをなるべく拾いたい観点からすると、提案の内容・実現可能性もあるが効率性の観点も考慮していかないと、限られた予算の中でなるべく裾野を広げていくことを考えると、そういったところも考慮して配分していかなくてはいけないのではないかと思う。なかなか成果が上がらないということがあると思うが、失敗はどうしてもたくさん出て来ると思う。成功を得るためには数をたくさん撃って絶対数を多くして、その中で拾っていくものだと思う。裾野を広げる努力も考えなければいけないと

・ 2年の区切りとして、2年分の成果はきちんと出してもらう。

・ 2年間でここまでやるという計画を審査している。「知」の集積事業の全体の流れとして、最初はプラットフォームを作ってもらおうという話だったのが、現在は似た主旨のプラットフォームは統合して、大きなプラットフォームにして活動してもらおうという流れになっており、どうしてもこのように大規模な話になってしまうので、全体的に予算も多めになってしまうことがあると思う。

・ 今回は、上位3件がいずれも上限一杯の予算を提案してきたので、このような結果になったが、過去にプラットフォーム事業の時には上限一杯ではなく、低い金額で採択されたので、その分採択件数が多くなったということもあった。必ずしも予算上限ありきで行っているものではない。



思う。